

(16)0702 アメリカでのフィッシング

板橋中央総合病院血液浄化療法センター

阿岸鉄三

魚釣り事始め

わたしの好きな outdoor-sports の一つに、魚釣りがあります。魚釣りとなると、結構凝った道具などを揃える人がいるようですが、わたしのやり方は、なにに対してでもそうですが、こだわらない、肩に力が入らないやり方です。道具は、竿・糸・釣り針があれば、いいやというやり方です。アメリカでというのは、日本では、最近ではあまり釣れないのですが、アメリカなら、どこでも、まあまあという位は釣れるからです。

釣りの古い経験というと、札幌の道庁の池での思い出があります。当然というか、釣りは禁じられていた筈ですが、子供の頃、手作りの釣り道具で、とんぎょ・ごだっぺという魚を悪ガキ仲間と釣っていました。現在の呼

び名はなんでしょう。たまに思い出しては、不思議に思っています。自分でいうのも変ですが、駄目といわれるとやってみたくなる悪いガキでした。

その次は、およそ 30 年前、留学していた米国クリーブランド市は、エリー湖に面していたので、大小の川があり、スメルト (smelt、ワカサギの一種といわれていましたが、その後、Norway 産のシシャモに smelt と表示があるのを日本のスーパーマーケットで見かけました) をバケツ一杯釣ったりしていました。

アラスカのサーモンフィッシング

その後は、日本では、あまり釣れず、ときどき、テレビで見るフロート付きの小型飛行機で湖を移動するアメリカでの釣りを夢見ていました。

10 年位前に、夏休みの時期にボストンで学会があり、帰りにアラスカへ行くチャンスが作れたのです。アンカレッジから 4~5 人乗り

の小型飛行機に30分ほど乗り、正確な名は忘れましたが、イヌイットの言葉でニシンに関係のある名の住民数1,000人ほどの村へ行きました。宿は、B & B (bed & breakfast)。日本式には、民宿です。村には、main street という名の道がありますが、長さ100メートル足らず。両側に3軒のレストランがあっおしまい。2日目からは、みんな顔馴染みで“よう、よう”という間柄になります。この村では、幅数メートルの川に、地元では dog salmon と呼ぶ小型のサケが沢山遡上するのを見ました。ペアリングして、尻尾で小石をかき分け産卵するのを見るのはちょっと感動ものでした。産卵後の salmon は、北海道ではホッチャレ（書きながら気がついたのですが、放っておけの意味でしょうか。美味しくないことで有名です）といますが、川が一面ホッチャレなのです。ここでの釣りの主な狙いはアラスカサーモンとハリバット halibut（北海道ではオヒョウと呼ぶ畳一枚位のヒラメの仲間）。

一日目は、日本人4人でチャーターしたモーターボートに乗りサーモンを釣りに出かけました。港内には、ラッコがぷかりぷかりと浮いています。結局、2本のサーモンと数匹のロックフィッシュ（オコゼ様の岩魚）を揚げました。わたしは、鉤には掛けたものの引き上げに失敗しましたが、引きには十分満足しました。一本のサーモンは、同行のSさんが日本に持ち帰って剥製にするというので、スーパーマーケットで冷凍して貰い、氷詰めにして大荷物を自分で抱えて帰りました。港の桟橋に止めたボート（4~5人は宿泊できる）のキッチンを使い、スーパーマーケットから買ってきた米でご飯を炊き、残りの魚は、マリネとスープにして食べました。近所にいたアメリカ人が、“旨そうな匂いがしてる”と参加してきました。翌日、Halibutを釣りに出たのですが、風が出て波が荒く、ボートは途中で引き返し、目的を達することができませんでした。釣れると、体長150センチ超です。

North Minnesota の John Wayne coffee

さらに、数年後、やはり夏休みにカナダのモントリオールで学会があり、その後で、North Minnesota へ行きました。12,000 の湖があるという湖水地帯です。一日は、地元のガイドを連れて、カヌーで釣りに行きました。ガイドはものすごい力持ちです。アルミのカヌーを頭の上に掲げ持ち、背には、ランチ用の料理道具・鍋・食材、そのほかを背負って先に立って藪道を行くのです。湖のように広い川で、30センチメートル位の Wall-eye (英和辞書には出ていません) という魚を十数枚上げて、ランチになりました。ガイドが全部用意してくれるのです。カヌーのオールを俎板にして、魚をおろし、取れたて魚のフライを作ってくれました。食事の後は、コーヒータイムです。空き缶にお湯を沸かし挽いたコーヒー豆を入れてます。それは、なんだいと聞いたら、“John Wayne coffee” といいました。

コーヒーの滓は、カップでどけながら呑むのです。カッコいい。John Wayne は、有名なハリウッドの西部劇スターです。西部劇の時代では、こうしてコーヒーを呑んだのでしょうか。

安いアメリカのアウトドアライフ

次の日は、長年の夢、いよいよフロート付き水上飛行機で釣りに行きました。カナダ側にわたり、Canadian Indian のガイドを連れて、また、wall-eye を釣りました。こんな話をすると、お金が大変かかると思うかも知れませんが、一日のツアー料金がすべて込みで一人100米ドル位、こんな遊びは日本では絶対できません。宿だって、two-bed rooms with shower の小屋が200米ドル/週位で借りられるのです。ベッドのシーツは、毎日換えてくれるのです。Outdoor で遊ぶなら絶対アメリカの理由です。その後で、船に乗り氷河とwhale watching へ行く予定だったのですが、19才の若い操縦士が谷間を縫って飛ぶ途中

で霧が深くてこれから先へは飛べないというのです。そこで不時着の場所を探し、なんとか広場を見つけました。地図の上では、港まで30マイルもある山の中です。飛行機から降りたって、荷物を持ってこの先どうするのよ。結局、森林警備隊のオフィスへ行き、電話を借りて港から迎えに来て貰って解決しました。

空（くう）を切る野生のニジマス

その次は、1999年の夏に、オレゴン州へ行きました。ここでの釣りの思い出は、rainbow trout ニジマスです。適当に山に入って、現地で17米ドルで買った道具でルーアフィッシングをしました。手応えがあったので、リールを巻きました。そうしたら、ニジマスが糸をつけたまま川面の上で径5メートル位の円弧を描いて空中を跳んだのです。絵では見たことがあります、あれ、本当なのです。感激しました。30分位のうちに、6~7匹を上げました。その形が、また素晴らしいのです。

日本で普通にみる養殖のニジマスは、ややでっぴりしていますが、サンマまでとはいわないまでも、野生のニジマスはスマートなのです。

サーモン押し売りのホームレスと間違われた
ワシントン州

2001年の夏は、ワシントン州へ行きました。Seattleへ飛ぶならIchiroを見に行こうということになりました。日本の旅行会社が、入場券をブローカーから1枚130米ドル買って呉れました。Safeco Fieldのバックネット裏でしたが、もともとは、34米ドルでした。Ichiroの活躍に対するご祝儀ということで、いいことにしました。次の日は、街でたまたま見つけたナタリーコールの演奏会の広告から、まともなブローカーを通して当日券をものにし、最前列から2列目で生歌（なまうた、近頃はliveといえますね）を聞いてきました。ナットキングコールの娘です。すごかった。最後

は、トランペットと掛け合いで歌うのです。
ものすごい迫力。

後日、大きな乗り合い船に乗り、海で salmon fishing をしました。結局、30人位で 34本の silver salmon を揚げました。わたしは、またもや、鉤には掛けたのですが逃げられました。でも、船を降りるときになって、自分で釣った人は優先的に持ち帰ってよいことになったのですが、わたしも1本貰いました。船長さんと仲良くしていたのが良かったようでした。そうしたら、salmonの腹を開いて筋子を10腹も集めている人がいます。どうやって食べるのかと聞きましたら、庭の池の鯉の餌にするのだというのです。ああ、もったいない。Salmon caviar を食べる習慣がないのです。わたしは、貰った salmon を一本ぶらさげて smoking house へ直行しました。薫製にして貰うためです。でも、日本へは傷むかも知れないから送らないといわれてガッカリ。でも、そんなことではへこたれません。

前夜夕食を食べたフランスレストランへ行きました。まあまあのグレードで、ワインを飲んで、一人 20 米ドルで食べられる町唯一とあっていいレストランです。Salmon を料理して貰おうと思ったのです。だけど、夕方 5 時頃でしたから店は、まだ開いていませんでした。中年の女性が店の掃除をしていましたので、ガラスドアのこちらから salmon を指さし、料理して欲しいと頼みました。だけど、女性は、No, No と手を振るばかりでドアを開けても呉れません。仕方ないので、7 時頃、店が開いてから、今度は少し身なりを整えお客らしくして、salmon をぶら下げてレストランへ行き、オーナーシェフを呼んでお任せで料理をしてもらうことに成功しました。ところで、先程の掃除をしていた女性は、ウェイトレスだったのです。そこでいってやりました。“お前さん、俺がさっき salmon を持って来たとき、ホームレスが salmon を押し売りに来たと思ったんだろう”。彼女は、しきりに、真面目に

謝るので、可哀想になって、“joking, joking”
とってあげました。

わたしは、日本人より外国人に対する方が、
直ぐに、気易い関係になる傾向があると自分
で思っています。旅は、いつも楽しいのです。
ときには、トラブルつづきでも。。

(挿し絵)

England の Castle Combe です。England の田舎
には、石で作られたせいか、数百年を経た古
い家が多く残っていますが、ここでは観光用
に意識的に町並みが保存されています。子供
の時に見たお伽噺の本の絵のようでした。